

# 東京家政大学 女性未来研究所 公開研究会

日時：平成30年5月10日（木） 15:50~16:20

場所：女性未来研究所

## 第1回

### 「女性管理職はなぜ増えないのか」

政府は「女性活躍推進」を旗印に、少子高齢社会を乗り切る切り札として女性の産業分野での活躍を推奨している。しかし、働く女性は増えても半数以上はパートなどの非正規雇用。企業の中核である役員や管理職女性は増えず、先進国の中でその少なさが際だっている。女性管理職の割合が3割を超える先進国が多い中で、日本はまだ1割強。役員にいたっては3%で、日本経済新聞が主要企業にアンケートした結果では77%が「女性役員ゼロ」と答えている。日本は政治と経済の分野で男女格差が大きく、世界経済フォーラムが毎年発表しているジェンダーギャップ指数は2017年で144か国中114位と過去最低を記録した。「2020年までに管理的職業に就く女性を30%にする」との政府目標はほとんど達成不可能といってもいい。

なぜ、こうした状況は改善されないのか。ひとつには日本社会に根付いた「男性が外で働き、女性は家庭を守る」との性別分業意識の根深さがある。内閣府の調査でこうした考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた人が男女ともに4割を超える。1~2割にとどまる欧米諸国に比べ強固だ。また日本の企業に蔓延する長時間労働も女性が働き続けることを難しくしている。日本では一度退職すると正社員での復帰は難しく管理職になる道は断たれる。現状を打破するには男女の意識改革と働き方改革が必要だ。

東京家政大学非常勤講師

平野 PJ 共同研究員

岩田 三代

